

臨地実習で出会った理想の臨床検査技師

◎小元真生¹⁾ 八木綾菜¹⁾
大阪医療技術学園専門学校¹⁾

私たち大阪医療技術学園専門学校では、3年次に臨床検査技師としての責任や、臨床現場を学ぶ為に6ヶ月間という長期の臨地実習を行う。臨地実習を終えた私たちは、実際の医療現場で多くの臨床検査技師に出会ったことで、自身が思い描く理想の臨床検査技師像とは一体何であるのかを考えるようになった。

そこでアンケートを実施し、個人の理想の臨床検査技師像を集計することで、どのような臨床検査技師になりたいかを考察した。

アンケート集計の結果、半数以上は理想と思える臨床検査技師に出会えたと回答した。理想の臨床検査技師として「指示されたことを行うだけでなく、自ら考えて行動できる技師」、「患者対応が十分できる技師」、「目標を決めて常に向上心を持って努力できる技師」などが挙げられたが、一番多かったのが「チーム医療の一員として多職種と連携を図るため、誰とでも円滑な関係が築ける検査技師」であった。

追加調査として、自身の理想とする臨床検査技師になるために今後どのような努力をする必要があるかアンケート調

査を実施した。その結果、「常に緊張感をもって検査を行う姿勢をもつ」、「勉強会に参加し、知識を蓄えそれを日々の業務に還元する力」、「他の医療従事者との連携が取れるように幅広く勉強する」などが挙げられた。

今回のアンケートを通じて、技術や知識が必要とされる職種であるが、それ以外にも他の医療従事者との連携や患者様への配慮など、協働への意識と能力を有していることが理想とする臨床検査技師像であると感じた。